

# 第六回大会記事

本会才六回大会は、去る五月二日、弘前大学人文学部に於て開催された。明年の創立十周年を控えて、記念事業（既報）も着々進行して居り、多数の参加者を得て盛会であつた。

当日の行事は左の通りである。

◎研究発表会（午前十時 於才二教室）

「津輕永孚の学統」

弘前大学 羽賀良七郎

（追つて本誌に掲載予定）

「津輕信明の庚申待・甲子待」

弘前実業高校 小館 衷三

（本号に掲載）

「自由民権家角鹿忠四郎について」

名久井農業高校 稲葉 克夫

（追つて本誌に掲載の予定）

「近世文通碑文・追分石小考」

—— スライド使用 ——

（本号に掲載）

弘前南高校 佐藤 仁

◎昼食懇親会（午後〇時三〇分 於会議室）

◎総 会（午後一時三〇分 於会議室）

1 庶務会計報告

2 会則原案審議

3 役員選出

昨年五月三日の才五回大会では中止した研究発表会は、四氏の熱心な発表をえて、質疑も活潑に行われ、得るところ大であつた。一般聴衆の参加もあり、才一回（三十二年十月二日）、才二回（三十四年六月七日）、才三回（三十五年十月十六日）、才四回（三十七年六月十六、十七日）——東北史学会大会と併催——と、会を重ねる度に盛会となり、その充実振りは、本会の発展を象徴するものとしてよろこびに堪えない。

昼食懇親会では、和気藹々のうちに会員の近況報告や花壇の発表があり、北海道・秋田県からの参加者もある。

て有意義な一時を過した。

総会では、庶務会計の報告が承認された後、別掲の会則が審議決定された。十周年を迎えるに当って、本会の運営を円滑にし、一層の発展飛躍を期するためである。また新会則に基いて、会長に人文学部教授宮崎道生博士が推薦され、委員、監事もそれぞれ別掲の通り決定になった。

役員を代表して、会長より、「周年を期して会の堅実な発展と本誌（三十八号まで発行）の充実に期待する旨の挨拶があった。

なお、明年は記念大会として、講演会・シンポジウムをも含めた大規模な大会が企画されているので、会員諸賢の積極的な参加が望まれる。

#### 弘前大学国史研究会々則

（下掲）

#### 弘前大学国史研究会役員

会長 宮崎道生

委員 荒井清明 堀名庸一 菊地修一

小龍表三 佐藤 仁 月足正朗

唐尾俊哉  
(五十音順)

監事 工藤守夫 千葉良一

#### 弘前大学国史研究会会則

才一条 本会は弘前大学国史研究会と称し、国史学を研究するをもつて目的とする。

才二条 本会の事務所は弘前大学人文学部国史研究室に置く。

才三条 本会は会の目的に賛同する者をもつて構成する。

才四条 本会は会の目的を達成するため、左の事業を行う。

一、機関誌「弘前大学国史研究」の発行

一、研究発表会の開催

一、研究調査とその成果の公刊

一、他の研究機関との学術交流

一、その他

才五条

本会に左の役員を置く。

一、会長一名 一、委員若干名 一、監事二名

役員は総会において選出し、その任期は一年とする。ただし、重任を妨げない。

才六条

本会に顧問を置くことができる。

才七条

総会は年一回開き、役員を選出および会務の報告を行なう。

才八条

委員は会務を分掌して会の運営をつかさどる。

委員会は必要に依じて会長が招集し、会の運営につき必要な事項を審議する。

才九条

本会会員は会費年額二百円を納入するものとする。ただし、学生会員はこれを免除する。機関誌代は別掲納入するものとする。

才十条

会則の変更は総会の議決を要する。